

**製品名: MyoD (リン酸化 Ser200) ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab05054**

研究使用のみ

**概要**

|        |  |
|--------|--|
| 説明     | ウサギポリクローナル抗体                                       |
| 宿主     | うさぎ  |
| 応用     | WB,IHC,ICC/IF,ELISA                                |
| 反応性    | ヒト、マウス、ラット   |
| 標識     | 非共役  |
| 修飾     | リン酸化   |
| アイソタイプ | IgG  |
| クローン性  | ポリクローナル  |
| 形態     | 液体   |
| 濃度     | 1mg/ml   |
| 保存     | アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。   |
| 輸送     | 氷袋   |
| バッファー  | 50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。 |
| 精製     | アフィニティー精製  |

**応用**

|      |  |
|------|--|
| 希釈倍率 | WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:10000 |
| 分子量  | 34kDa  |

**抗原情報**

|              |   |
|--------------|---|
| 遺伝子名         | MYOD1   |
| 別名           | MYOD1; BHLHC1; MYF3; MYOD; Myoblast determination protein 1; Class C basic helix-loop-helix protein 1; bHLHc1; Myogenic factor 3; Myf-3 |
| 遺伝子 ID       | 4654.0  |
| SwissProt ID | P15172  |
| 免疫原          | 抗血清は、ヒト MYOD 由来の Ser200 リン酸化部位周辺の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 171-220  |

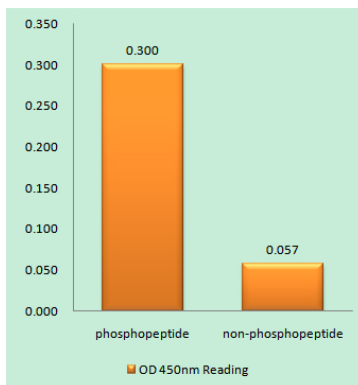
**背景**

この遺伝子は、転写因子の基本ヘリックス-ループ-ヘリックスファミリーおよび筋形成因子サブファミリーに属する核タンパク質をコードしています。この遺伝子は、筋形成の開始に必要な細胞周期停止を誘導することで、筋細胞の分化を制御します。このタンパク質は筋肉の再生にも関与しています。また、自身の転写を活性化することで、筋形成へのコミットメントを安定化させる可能性があります。[RefSeq 提供、2008年7月],機能: 筋肉分化に関与 (筋形成因子)。線維芽細胞を筋芽細胞に分化させる。筋肉特異的プロモーターを活性化する。ツイストタンパク質と相互作用し、阻害される。この相互作用には、おそらく両方のタンパク質の基本ドメインが関与しています。、オンライン情報: MyoD エントリ,PTM: EP300 および PCAF を含む複合体によってアセチル化されます。このアセチル化は、標的遺伝子の活性化に不可欠です。逆に、SIRT1 による脱アセチル化は機能を阻害する。、PTM: N末端がユビキチン化されており、プロテアソームによる分解に必要である。、類似性: 1つの基本ヘリックス・ループ・ヘリックス (bHLH) ドメインを含む。、サブユニット: 効率的な DNA 結合には、別の bHLH タンパク質との二量体形成が必要である。ITF-2 と活性ヘテロ二量体を形成するようである。SUV39H1 と相互作用する。、

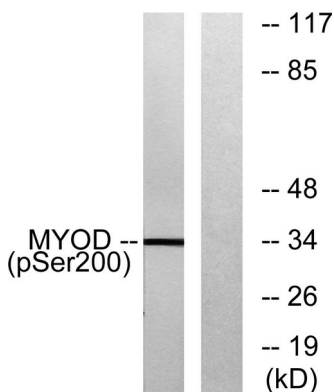
## 研究分野

エピジェネティクスと核シグナル伝達

## 画像データ



MYOD (リン酸化 Ser200) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定 (リン酸化 ELISA)



MYOD (リン酸化 Ser200) 抗体を用いた、Ca<sup>+</sup> 40nM 30°処理した Jurkat 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。